

2024年度版

とちぎの “食と農”

栃木県の農業・農村の概要

誇れる「ふるさと」を
次の世代へ！



栃 木 県

とちぎの“食と農”

栃木県の農業・農村の概要 2024年度版



【1位 米】



【3位 豚】



【5位 肉用牛】



【7位 もやし】



【9位 なら】



【10位 なし】

目次

- とちぎの農業のすがた・・・・・・・・・・1
 - ・農業生産の動向
 - ・担い手の動向
 - ・農地の動向
- とちぎ自慢の農産物・・・・・・・・・・2
 - ・主要な農産物一覧
 - ・米・麦・大豆
 - ・野菜・特産・果樹・花
 - ・畜産
- 栃木県農政の基本方針と重点戦略・・・・・・・・・・5
- 栃木県農政部の組織と仕事・・・・・・・・・・7
- 栃木県が開発した品種や技術・・・・・・・・・・8
 - ・とちぎの農業関係試験研究機関
 - ・新技術の開発
 - ・オリジナル品種の開発



【2位 生乳】



【4位 いちご】



【6位 鶏卵】

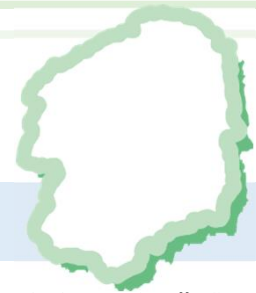


【8位 トマト】

令和4年農業産出額 県内上位10品目

本書のデータは令和6（2024）年1月末時点のものです

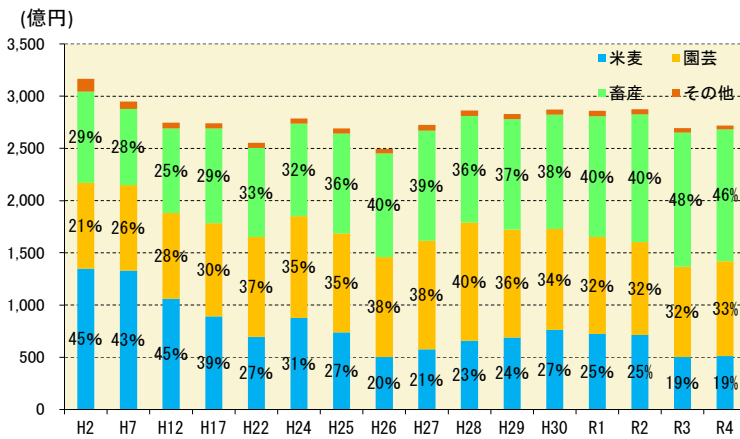
とちぎの農業のすがた



農業生産の動向

- 栃木県は大消費地である首都圏に位置し、平坦で広い農地、豊富な水資源、穏やかな気候など、農業に適した条件に恵まれています。
- これらの条件と農業者の優れた技術によって、日本一のいちごをはじめ、米、生乳、にらなど、全国に誇れる多彩な農産物が生産されています。
- 栃木県の令和4年の農業産出額は、2,718億円、全国順位は昨年と同じ9位となっています。

【農業産出額】



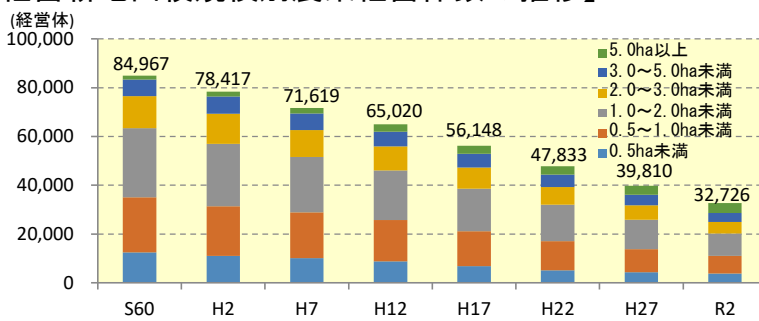
【とちぎの農産物産出額ベスト10】

順位	品目	産出額(億円)	構成比(%)	全国順位
1	米	458	16.9	10
2	生乳	418	15.4	2
3	豚	287	10.6	8
4	いちご	277	10.2	1
5	肉用牛	244	9.0	8
6	鶏卵	244	9.0	5
7	もやし	107	3.9	1
8	トマト	77	2.8	7
9	にら	51	1.9	2
10	日本なし	50	1.8	3

担い手の動向

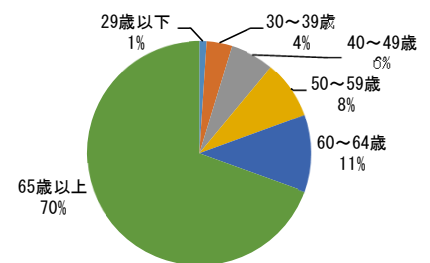
- 農業経営体数は年々減少し、30年前の約4割となっています。基幹的農業従事者のうち約7割を65歳以上が占めています。
- 一方で、経営面積5ha以上の経営体は30年前の約2倍となるなど、経営の大規模化が進んでいます。

【経営耕地面積規模別農業経営体数の推移】

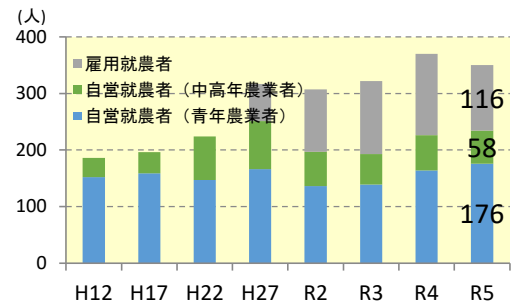


- 令和5年度は、350名の新規就農者を確保しました。
- 平成27年度から10年連続で300名を超えています。

【基幹的農業従事者の年齢別割合】



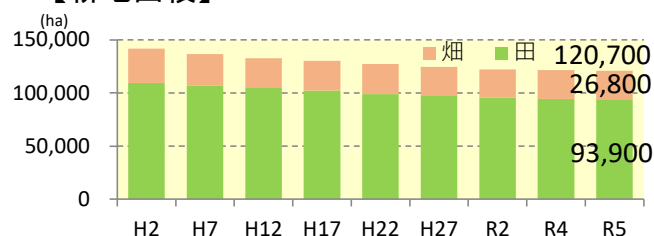
【新規就農者数】



農地の動向

- 耕地面積約12万1千haのうち、田の面積が約78%を占めています。

【耕地面積】



とちぎ自慢の農産物

主要な農産物一覧



いちご

栃木県は、生産量が半世紀以上にわたり日本一の「いちご王国」。
新品種「とちあいか」の生産が増加しています。



うど

独特の味と香り、歯ざわりが魅力のうど。
穂先は天ぷら、皮はきんぴら、茎は酢の物など、余すところなく食べられる優れたものです。



かんぴょう

300年以上前に栽培が始まり、生産量が全国の99%以上を占める特産物。
原料のゆうがおは新たな食材としても活用されています。



麻

栃木県で作られる精麻は「野州麻」と呼ばれ、強度があり、利用価値が高いと言われています。
伊勢神宮のしめ縄にも使われています。



二条大麦

県内全域で生産される二条大麦は、ビールやお菓子の原料などになります。
そのうち、ビールの原料となる「ビール大麦」の収穫量は全国1位です。



にら

県内全域で生産され、1年を通して出荷されています。
県オリジナル品種「ゆめみどり」の作付面積が拡大しています。



生乳

涼やかな県北地域を中心に乳用牛が飼育されています。
牛乳には、たんぱく質やカルシウムが豊富に含まれています。



こんにゃくいも

こんにゃくの原料であるこんにゃくいもの生産は全国第2位。
県西部及び東部の中山間地域を中心に生産されています。



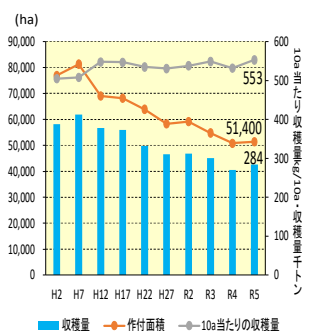
米・麦・大豆

- 豊かな水資源と広大な水田からコシヒカリを中心としたおいしい「栃木米」が生産されています。
- 子どもたちがおいしい「栃木米」を味わえるよう、学校給食には、全量県産米が使用されています。
- 令和元年11月に行われた「令和の大嘗祭」には、本県オリジナルの米「とちぎの星」が、悠紀地方（東日本）の代表として供納されました。

※収穫量の全国順位

米(全国第8位※)

米の収穫量と作付面積の推移



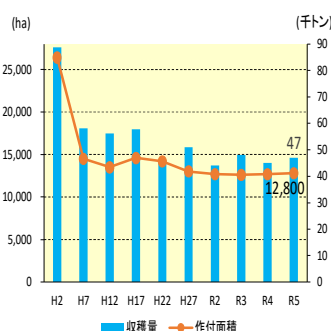
284,200トン (R5)

おにぎりに換算すると、国民1人当たり約38個分



ビール大麦(全国第1位※)

麦類の収穫量と作付面積の推移



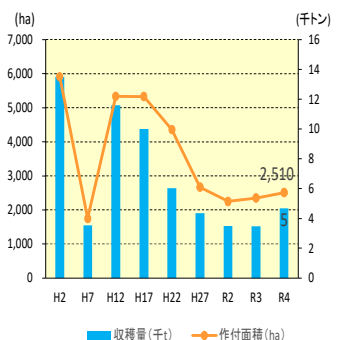
24,034トン (麦検査数量)

ビール(大瓶)に換算すると、県成人1人当たり約137本分



大豆(全国第11位※)

大豆の収穫量と作付面積の推移



4,690トン (R4)

豆腐に換算すると、県民1人当たり約28丁

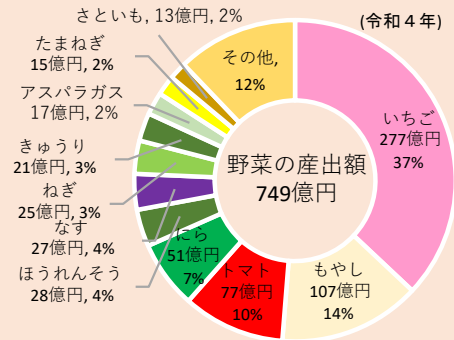


野菜・特産

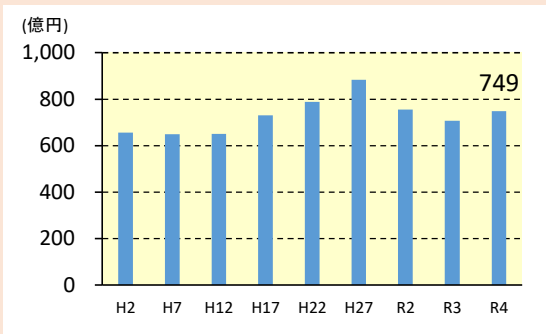
- 半世紀以上にわたり生産量が日本一のいちごをはじめ、トマト、にら、アスパラガス、なすなど多彩な野菜が生産されています。
- とちぎの新鮮な味を、1年を通してより多くの食卓に届けるため、最新の生産施設や出荷施設の整備を進めています。
- 収穫量全国1位のかんぴょう、うど、あさ、2位のあゆ、こんにゃくいもなど、地域の自然や風土に根ざした特産物が生産されています。

※収穫量の全国順位

野菜の品目別産出額割合



野菜の産出額の推移



いちご(全国第1位※)



24,400トン (R4)

県民1人当たり約46パック分 (1パック約280g)

トマト(全国第5位※)



32,000トン (R4)

県民1人当たり約141個分 (1個約120g)

にら(全国第2位※)



8,320トン (R4)

県民1人当たり約44束分 (1束約100g)

かんぴょう(全国第1位※)



209トン (R2)

地球をかんぴょうで巻くと地球約1周分

あゆ(全国第2位※)



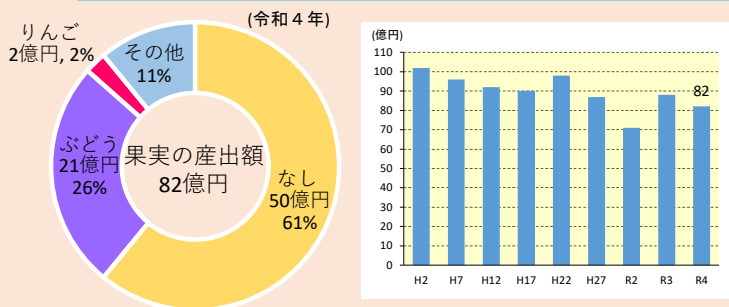
299トン (R4)

一列に並べると宇都宮市から札幌市まで届きます

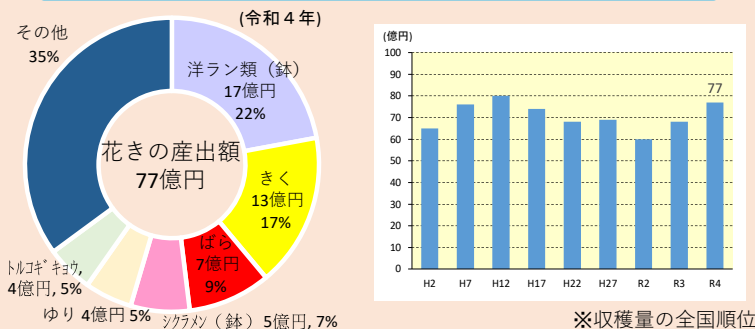
果樹・花

- 本県の果樹は、なしとぶどうが多く生産されており、県の果実産出額の約9割を占めています。
- 特に、なしは収穫量全国第3位で、甘くてみずみずしい「幸水」や「豊水」、さらには本県オリジナル品種「にっこり」が生産されています。「にっこり」は輸出も盛んに行われています。
- 花では、きく、ばら、カーネーション、りんどう、シクラメン、洋らんなど、四季折々の多彩な花が生産されています。

果実の品目別産出額割合、産出額の推移



花の品目別産出額割合、産出額の推移



※収穫量の全国順位

なし(全国第3位※)



17,000トン (R4)

県民1人当たり約30個分 (1個約300g)

ぶどう(全国第21位※)



1,490トン (R2)

県民1人当たり約3房分 (1個約300g)

きく(切り花)(全国第9位※)



2,320万本 (R4)

県民1人当たり約12本分

鉢種類(全国第11位※)



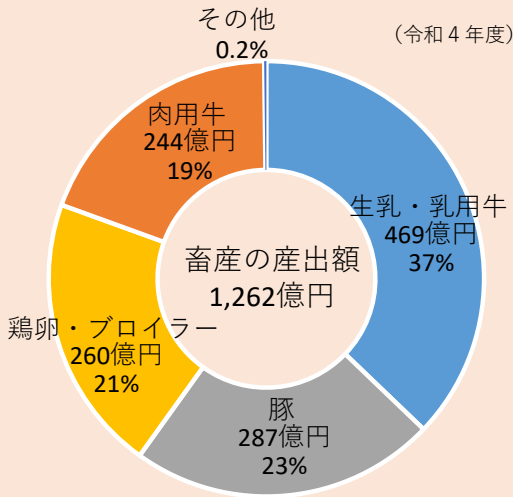
379万鉢 (R4)

県民1人当たり約2鉢分

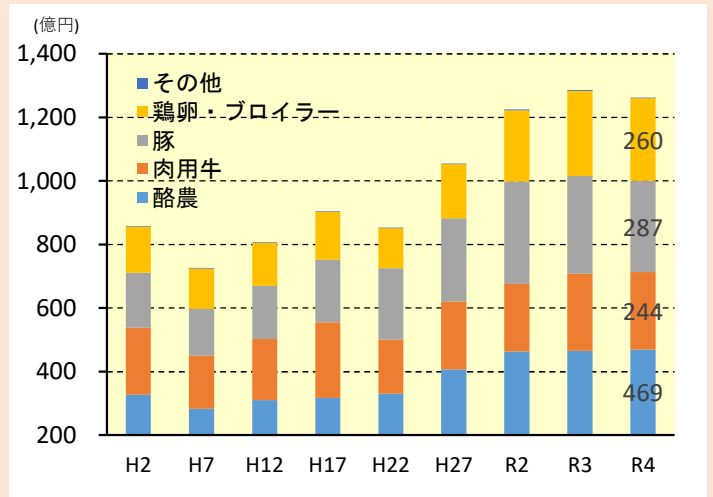
畜産

- ・ 飼養頭数は、乳用牛が全国第2位、肉用牛が全国第7位であるなど、全国有数の畜産県です。
- ・ 畜産物の産出額は増加傾向であり、本県の農業産出額の約5割を占めています。
- ・ 牛肉は、アメリカやシンガポール、EUなどへの輸出も行われています。

畜産物の品目別産出額割合

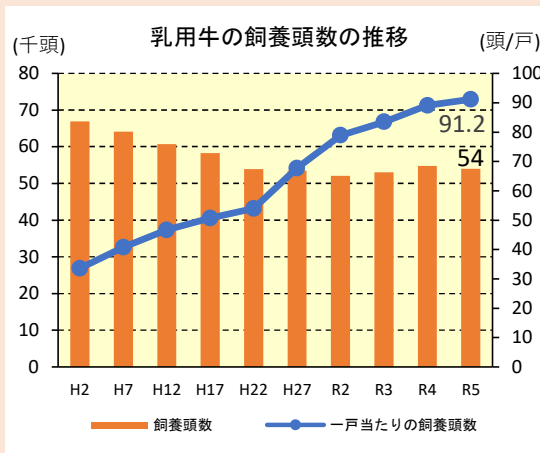


畜産物の産出額の推移

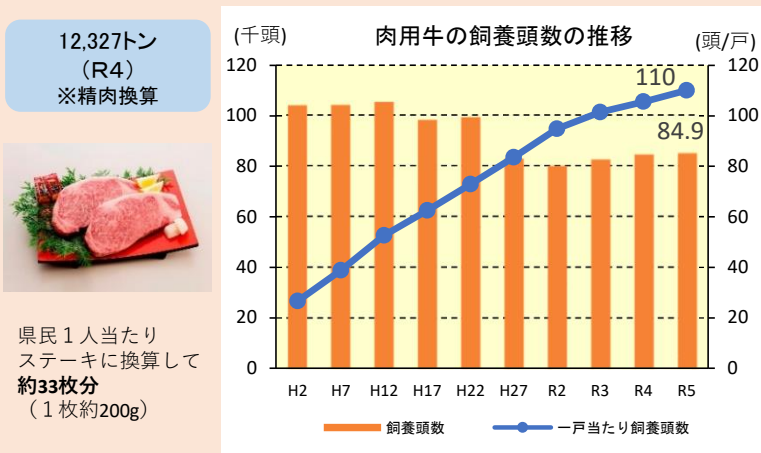


※飼養頭数、飼養羽数の全国順位

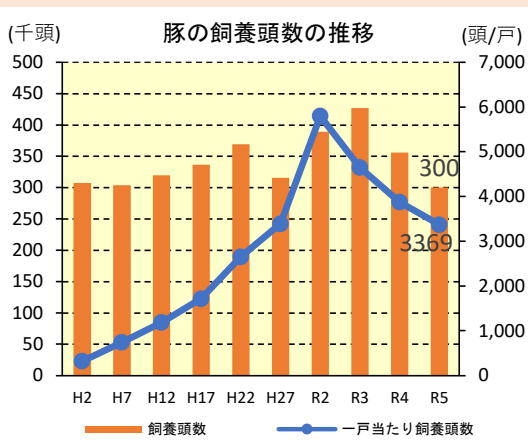
生乳(全国第2位※)



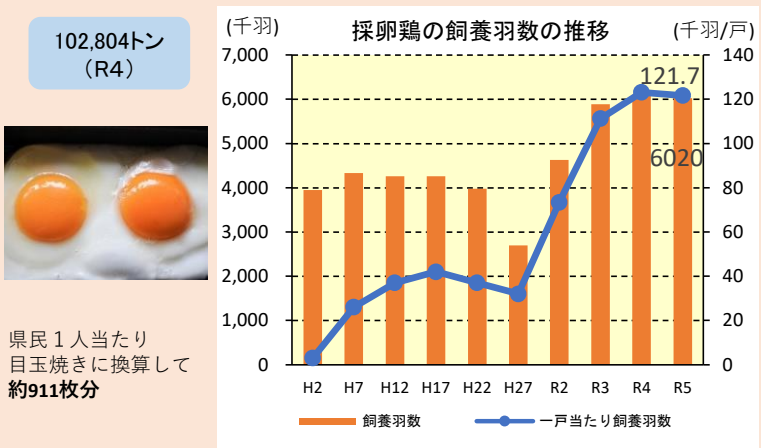
牛肉(全国第7位※)



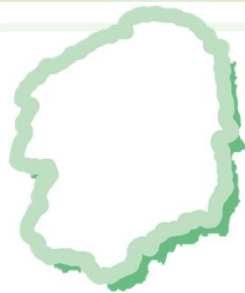
豚肉(全国第11位※)



鶏卵(全国第11位※)



栃木県農政の基本方針と重点戦略

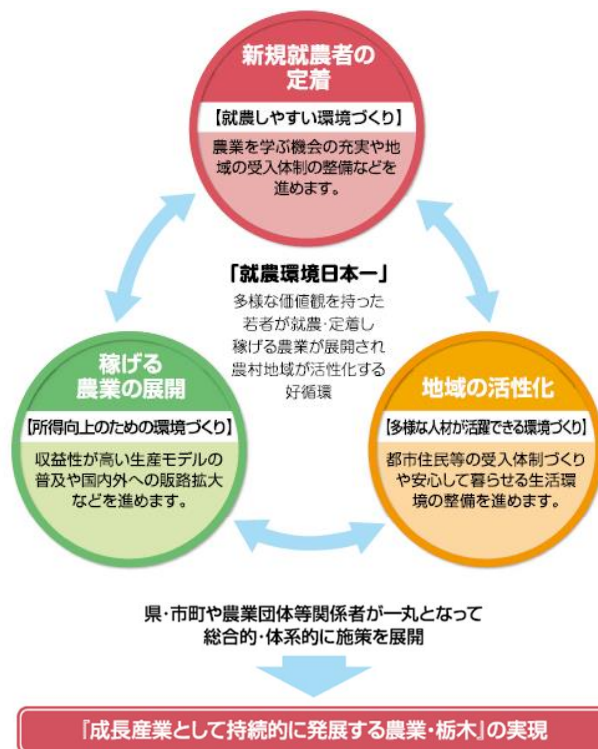


【基本目標】

多様な価値観を持った若者が就農・定着し、稼げる農業が展開され、農村地域が活性化することで好循環を生み出し、「成長産業として持続的に発展する農業・栃木」の実現を目指します。

数値目標		(参考)直近値
◆農業の販売力: (販売農家1戸あたりの農業産出額)	【1,000万円】 (2024年)	【793万円】 (2018年)
◆地域農業を支える力: (青年新規就農者数)	【1,600人】 (2021-2025年)	【1,264人】 (2016-2020年)
◆地域の持続力: (担い手への農地集積率)	【80%】 (2025年)	【52.7%】 (2019年)

(出典)販売農家戸数・農業産出額:農林水産省調べ
青年新規就農者数・農地集積率:栃木県農政部調べ



【重点戦略】

基本目標の実現に向け、重点的に取り組む3つの「重点戦略」を推進しています。

戦略1: 明日へつなぐ

意欲的な若者をはじめとする多様な人材が活躍し、本県農業を力強く支え、明日へつなげる農業を展開します。

①地域農業を持続的に支える仕組みづくり

高齢化などにより農家が減少する中、地域農業を持続的に支えていくため、担い手への一層の農地集積・集約や、広域的に営農を展開する法人などの新たな担い手の育成を図るとともに、多様な人材など地域の力を結集した農業の仕組みづくりを進めます。



集落営農組織の連携に向けた話し合い



農業法人等の雇用管理能力向上研修会

②意欲ある人材の参入促進

産地が主体となった新規参入者を受け入れる新たな体制づくりを進めるとともに、農業を学ぶ機会の充実を図り、栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めます。



就農相談会の開催



ベテラン農家「とちぎ農業マイスター」による新規就農者指導

戦略2:強みを伸ばす

大消費地に近く、広大な水田と高い生産技術などを有する本県の強みを最大限に生かし、成長産業としての農業の更なる発展を図ります。

①新たな施設園芸の展開

A I等を活用した新たないちご生産技術の開発や、いちご、にらの高収益モデルの確立等により、施設園芸の収量や品質の飛躍的な向上を図ります。



AI活用によるいちご生産システムの開発

新たな栃木型にら生産モデルの実証

②稼げる水田農業の実現

水田を活用した競争力の高い大規模園芸産地の育成を進めるとともに、先端技術の導入や団地化を進め、省力的で効率的な稲・麦・大豆の生産体制を確立します。



キャベツの機械収穫

ドローンを活用した水稲への追肥作業

③栃木の畜産力強化に向けた展開

本県畜産の産出額拡大を目指し、担い手の確保と経営形態の多様化を図るとともに、A I・I o Tの活用や家畜伝染病対策等の推進による生産性・ブランド力の向上に取り組み、経営力及び生産・販売力を高めていきます。

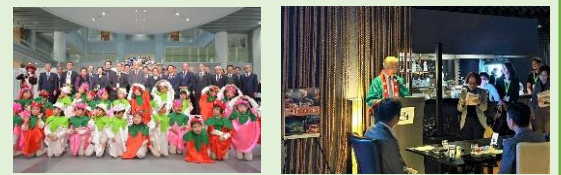


餌寄せロボット

キッチンカーによる牛乳の魅力発信

④“選ばれる栃木の農産物”の実現

「いちご王国・栃木」を最大限に生かしてブランド発信力を強化するとともに、オリジナル品種のブランド価値の深化を図り、国内外で「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。



県誕生150年記念「いちご王国・栃木の日」イベント

シンガポールにおける県産農産物知事トップセールス

⑤次代を見据えた研究開発の推進

本県農業の顔となるオリジナル品種や生産性の高い新技術の開発を進めるとともに、気候変動や温室効果ガス排出削減など環境の変化や時代のニーズに適応した農業技術の開発・普及により、本県農業のイノベーションを促進します。



水田からの温室効果ガス排出抑制水管理技術の確立

アジサイの県オリジナル品種「エンジェルリング」、「プリンセスリング」

戦略3:呼び込み・拓く

新しい人の流れの創出による農村地域の活性化と安全・安心で住みよい農村づくりを進めます。

①新しい人の流れの創出による農村地域の活性化

農村資源を活用した都市住民等の交流人口の拡大、将来的な移住・定住につながる農村における関係人口の創出・拡大に向けた取組を推進するとともに、農村地域の将来を担う多様な人材の定着を促進し、新しい人の流れの創出による農村地域の活性化を図ります。



農泊体験ツアー

農村ファン交流会

②安全・安心なとちぎの農村づくり

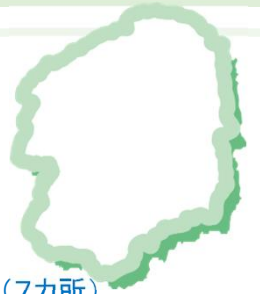
農地や農業水利施設などの農業生産基盤の整備や管理により、良好な営農条件を備えた優良農地を確保するとともに、農村地域の防災・減災力の強化と安全性に配慮した次世代型の農村環境の整備に取り組みなど、安全・安心で住みよい農村づくりを進めます。



作業効率が良い、整備された水田

田んぼダム排水マス設置研修会

栃木県農政部の組織と仕事



- 農政課**
 ☎ (028)623-2272
 * 農政の企画・予算・広報など部内の取りまとめ、とちぎ農業未来創生プランの推進、食と農業の理解促進や食育・地産地消の推進、試験研究の総合調整、スマート農業の推進、農地法の許認可などに関する仕事をしています。
- 農村振興課**
 ☎ (028)623-2363
 * 農村への誘客促進、魅力的な中山間地域づくり、豊かな農村環境の保全・整備、水産の振興などに関する仕事をしています。
- 経済流通課**
 ☎ (028)623-2297
 * 農業協同組合や農業共済組合の検査・指導、農業制度金融の活用推進、農産物のブランド価値向上や輸出促進などに関する仕事をしています。
- 経営技術課**
 ☎ (028)623-2313
 * 新規就農者や農業経営者など担い手の育成、農業経営や技術の指導、とちぎグリーン農業の推進などに関する仕事をしています。
- 生産振興課**
 ☎ (028)623-2328
 * 米・麦・大豆の振興と水田農業の活性化、野菜・果樹・花き・養蚕などの振興、担い手への農地の集積・集約化の推進などに関する仕事をしています。
- 畜産振興課**
 ☎ (028)623-2344
 * 酪農・肉牛・豚・鶏・養蜂の振興、飼料の生産、家畜の衛生・防疫や環境対策、獣医師、公共牧場などに関する仕事をしています。
- 農地整備課**
 ☎ (028)623-2361
 * 農業農村整備事業の調査・計画及び実施、土地改良区の検査・指導、農地や農業用施設の災害復旧、換地などに関する仕事をしています。

- 農業振興事務所(7カ所)**
 地域農業の総合的な振興拠点として、農業経営や技術の普及指導、農業農村整備の施工や指導、農地法の許認可などを行っています。
- 水産試験場**
 大田原市佐良土2599 ☎(0287)98-2888
 水産技術の研究開発などを行っています。
- 【なかがわ水遊園】**
 大田原市佐良土2686 ☎(0287)98-3055
 那珂川をはじめとする淡水魚の展示や、沿川地域の自然や文化に関する体験講座などを実施しています。
- 農業総合研究センター(本場・いちご研究所・原種農場)**
 宇都宮市瓦谷町1080 ☎(028)665-1241
 最先端の農業技術や品種の開発、病害虫の発生予察などを実施しています。
- 農業大学校**
 宇都宮市上籾谷町1145-1 ☎(028)667-0711
 次代の農業・農村を担う青年を優れた教育環境の中で育成しています。
- 【とちぎ花センター】**
 栃木市岩舟町下津原1612 ☎(0282)55-5775
 花の生産・普及の拠点として、県民に憩いながら提供しています。

- 家畜保健衛生所**
 (県央)宇都宮市平出工業団地6-8 ☎(028)689-1200
 (県南)栃木市惣社町1439-20 ☎(0282)27-3611
 (県北)那須塩原市千本松800-3 ☎(0287)36-0314
 特定家畜伝染病対策施設 那須塩原市千本松298-24
 家畜伝染病の予防や研究などを行っています。
- 畜産酪農研究センター**
 那須塩原市千本松298 ☎(0287)36-0230
 乳用牛、肉用牛及び豚の生産技術や家畜ふん尿処理技術等の研究開発などを行っています。

農業振興事務所所管エリア



農業振興事務所の組織 ※事務所によって課の名称や業務分担等が異なる場合があります。		
管理部	管理課	予算・決算、農地、農業振興地域
企画振興部	企画振興課	地域の農業施策の計画立案、水田農業の活性化、市町村・農業団体等の総合調整、むらづくり、農村への誘客促進、中山間地域対策
経営普及部	園芸課 農畜産課 経営指導担当	野菜・果樹・花き等の生産振興、技術・経営指導 米・麦・大豆及び畜産物等の生産振興、技術・経営指導 農業金融、経営体育成、環境保全型農業の推進
農村整備部	調査保全課 整備課 管理指導担当	農業農村整備事業調査・計画、農業集落排水、地籍調査 農業農村整備事業実施 土地改良区指導、換地

河内農業振興事務所	宇都宮市竹林町1030-2	☎ (028) 626-3059
上都賀農業振興事務所	鹿沼市今宮町1664-1	☎ (0289) 62-5236
芳賀農業振興事務所	真岡市荒町116-1	☎ (0285) 82-4438
下都賀農業振興事務所	栃木市神田町5-20	☎ (0282) 23-3425
塩谷南那須農業振興事務所	矢板市鹿島町20-22	☎ (0287) 43-1251
那須農業振興事務所	大田原市本町2-2828-4	☎ (0287) 23-3141
(同那須広域ダム管理支所)	那須塩原市百村3092-1	☎ (0287) 69-0101
安足農業振興事務所	佐野市堀米町607	☎ (0283) 23-1455

栃木県が開発した品種や技術

とちぎの農業関係試験研究機関

■ 農業関係の4試験研究機関が、「栃木県農業試験研究推進計画」に基づき、効果的・効率的な試験研究に取り組んでいます。

【農業試験研究の重点テーマ】

- 1 栃木のブランド力を高める農産物の開発
- 2 気候変動等の環境変化に適応した生産技術の開発
- 3 生産力向上や省力化を実現する革新的な技術の開発
- 4 農産物の新たな価値を創出する技術の開発
- 5 地域の活力や魅力向上につながる技術の開発

◆畜産酪農研究センター

乳用牛、肉用牛及び豚の生産技術や畜産環境保全技術の研究開発を行っています。

◆県央家畜保健衛生所（家畜衛生研究部）

家畜疾病の診断・予防技術の研究開発を行っています。

◆農業総合研究センター

○本場

農作物の生産技術の研究開発や、新品種を開発を行っています。

○いちご研究所

全国唯一のいちご専門の研究機関。いちごの新品種開発や高品質超多収技術に関する研究開発を行っています。

◆水産試験場

本県特産魚の生産技術の研究開発や、水域生態系の調査・研究を行っています。

新技術の開発

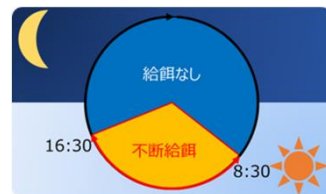
■ 研究成果事例

「夜間制限給餌による肥育豚の生産費低減技術」

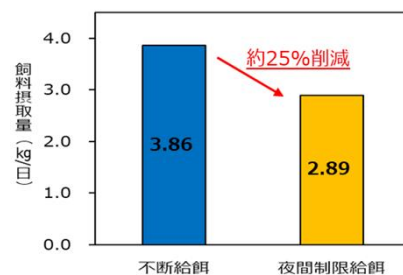
今般の国際情勢の変化に伴い、飼料や肥料等の価格が高騰しており、低コスト生産技術の確立が求められています。

本県の農業産出額のうち約5割を占める畜産において、収益性を確保するため、畜産酪農研究センターが、肥育豚の飼料摂取量を削減する技術を開発しました。

具体的には、去勢豚の肥育において、16時30分から翌8時30分までの間、給餌制限することにより、飼料摂取量を約25%削減することができました。また、慣行の給餌方法と同等の発育成績や枝肉重量・品質を確保することができました。



扉の設置により夜間給餌を制限 制限給餌時間

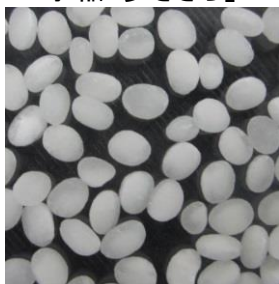


1頭当たりの飼料摂取量 (kg/日)

オリジナル品種の開発

■ 県試験研究機関では、消費者ニーズや農業者からの期待に応えるため、いちごや水稻をはじめ、なしや花きなどのオリジナル品種を、優れた育種技術により次々と開発しています。

水稻「夢ささら」



- 品種登録 令和4年2月
- 主な特徴
 - ・心白がはっきりしていて日本酒造りに適する。
 - ・玄米を削る際にも砕けにくい。ため、大吟醸酒の製造に向く。
 - ・稲が倒れにくく、病気に強い。

大麦「もち絹香」



- 品種登録 令和4年2月
- 主な特徴
 - ・弾力のある食感
 - ・麦飯特有の不慣れた臭いが発生しにくい。
 - ・炊飯後も褐変しにくい。(写真は炊飯24時間後)

いちご「とちあいか」



- 品種登録 令和6年6月
- 主な特徴
 - ・酸味が少なく際立つ甘さ。
 - ・収穫始めが10月下旬と早く、収穫量が多い。
 - ・切り口はへた部分がくぼむハート型である。
- 生産状況 令和6年産 279.6ha

いちご「ミルキーベリー」



- 品種登録 令和6年6月
- 主な特徴
 - ・果実が白い。
 - ・まろやかな食感のいちご。
 - ・果実は大きいものが多く、収量性に優れる。
- 生産状況 令和6年産 2.6ha

にら「ゆめみどり」



- 品種登録 平成29年2月
- 主な特徴
 - ・生育が旺盛で多収。
 - ・収穫を重ねても葉幅の低下が少なく、品質が安定している。
- 生産状況:42.5ha(令和5年産)

大麦「ニューサチホゴールド」



- 品種登録 平成30年2月
- 主な特徴
 - ・ビールの品質を低下させる酵素の一種(Lox-1)を含まない。
 - ・その他の特性はサチホゴールド同様で、栽培性に優れる。
- 生産状況:7,689ha(令和5年差)

全雌三倍体サクラマス
「銀桜サーモン」



- 商標登録 令和4年3月
- 主な特徴
 - ・大型(全長約50cm)に成長する。
 - ・銀色に輝き、姿、色が美しい。
 - ・引きが強く、釣り味が良い。
- 取扱い管理釣り場
令和6年1月時点:8箇所

あじさい「キャンディポップ」



- 出願公表 令和5年3月
- 主な特徴
 - ・八重咲きのがくあじさいで、花色は深みのある濃いピンク色で赤いふちどりが入る。



あじさい「スターポップ」

- 出願公表 令和5年3月
- 主な特徴
 - ・八重咲きのがくあじさいで、花色は白から淡いピンク色で赤いふちどりが入る。



あじさい「ジュエリーポップ」

- 出願公表 令和5年3月
- 主な特徴
 - ・八重咲きのでまりあじさいで、花色は白から淡いピンク色で赤いふちどりが入る。

現在登録されている栃木県育成の品種数 (令和6年1月末日時点)

※出願公表品種を含む

品目	水稲	麦	いちご	なし	かぼちゃ	うど	あじさい	りんどう	にら	その他	計
品種数	4(5)	6(12)	5(10)	2(3)	1	2	7	2	1(3)	2(16)	32(61)

※ () 内はこれまで登録した品種数

栃木県誕生150年を記念して 県産農産物の魅力を発信！



「いちご王国」ライン出発式



とちぎの地産地消食べ歩きフェア
小売店弁当部門グランプリ作品

栃木県誕生150年を記念し、県産農産物の魅力を発信するため、県内外で多くのイベントを開催しました。

「いちご王国・栃木」のPRに向けては、東武鉄道(株)及びJAグループ栃木と連携し、東武宇都宮線の愛称を「いちご王国ライン」としたほか、いちごラッピング列車の運行などを行いました。

また、「大切な人にいちごを贈ろう運動」や「いちご川柳コンクール」を実施し、県民の皆様と一体となったプロモーションを展開しました。

加えて、本県の食文化や豊かな食材の魅力発信に向け、県内の飲食店等が地元食材に関連したメニュー等を提供する「とちぎの地産地消食べ歩きフェア」を実施しました。

「栃木県民牛乳消費拡大月間」を制定！

国際情勢の変化による飼料価格高騰など酪農家の経営が厳しい状況の中、県民を挙げて牛乳を飲む機会を増やすため、牛乳の消費が落ち込む8月と12月を「栃木県民牛乳消費拡大月間」として制定しました。

「とちぎ☆夏ミルク」、「とちぎ☆冬ミルク」を合言葉に、本月間の周知に加え、ミルクキッチンカーによる牛乳料理の重点販売や、プレゼントキャンペーン等を実施し、多くの皆様に牛乳を飲んでいただきました。

引き続き、関係団体と連携しながら、牛乳の消費拡大を取り組んでいきます。



プロスポーツチームと連携した
栃木県民牛乳消費拡大月間PRポスター



ミルクキッチンカー「ミルト号」お披露目式

栃木県

農政部農政課

〒320-8501 栃木県宇都宮市埜田1-1-20

TEL028-623-2272 fax028-623-2340

令和6(2024)年7月発行